

令和2年12月9日

東日本入国管理センター所長 殿

東日本入国管理センター総務課

入国警備官 潮田 洋次 

トルコ人の制圧時に撮影された映像の補正について（報告）

平成31年1月19日のトルコ人（以下「デニズ」という。）の制圧及び隔離時にハンディカメラで撮影された映像について、同動画冒頭の居室内を撮影した映像が暗く、室内の状況が判然としないため、専門業者に依頼し映像の補正作業を行った。その状況について、下記のとおり報告する。

## 記

## 1 補正依頼したデータ形式

- (1) モザイク処理後のデータ（MP4ファイル形式）
- (2) モザイク処理前のデータ（MTSファイル形式）

## 2 補正依頼した映像

平成31年1月19日午前0時30分から1時6分までの間、ハンディカメラで撮影したデニズの制圧及び隔離時の映像のうち、暗くて鮮明でない冒頭の5分10秒間の映像。

## 3 補正内容

- (1) 1回目の補正（MP4：5分11秒まで、MTS：10分23秒まで）

業者が映像編集ソフトを使用して、モザイク処理前のデータ及び処理後のデータを同ソフト内に取り込んだ上、コントラスト（明るさ）、彩度（色の濃さ）、輝度（明るさ）のバランスを調整し、映像が鮮明になるように補正した。

- (2) 2回目の補正（MP4：15分40秒まで、MTS：20分53秒まで）

1回目で補正した映像を再度ソフト内に取り込み、再びコントラスト（明るさ）、彩度（色の濃さ）、輝度（明るさ）のバランスを調整し、映像が更に鮮明になるように試みた。

## 4 補正結果

(1) 1回目の補正

モザイク処理前のデータ及び処理後のデータともに、補正前と比較して映像全体がやや明るくなり職員の輪郭や室内の物品などが確認できるようになったが、室内の入国警備官とデニズの様子についてその詳細が確認できるほど映像が鮮明にはならなかった。

(2) 2回目の補正

1回目に補正した映像と比較して映像全体は明るくなったが、画質が悪くなり、職員の輪郭は確認できるものの、室内の物品や入国警備官とデニズの様子についてその詳細が確認できるほど映像が鮮明にはならなかった。

(3) 専門業者の説明

これ以上映像の補正を繰り返しても、画質が悪くなるだけで、映像が鮮明になることはない。映像が鮮明にならない理由は、

- 撮影時の照度が不足し映像の状態が劣悪であること
- 室内が暗く、ハンディカメラのオートフォーカス機能が作動していないためか画像の焦点があっておらず映像がぼやけていること

である。よって、今より鮮明な映像に補正することは不可能で、他の映像編集ソフトを使用しても結果は変わらない。

以 上